

ルカ 22:54 それから人々はイエスを捕え、ひっぱって大祭司の邸宅へつれて行った。ペテロは遠くからついて行った。

22:55 人々は中庭のまん中に火をたいて、一緒にすわっていたので、ペテロもその中にすわった。

22:56 すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、「この人もイエスと一緒にいました」と言った。

22:57 ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言った。

22:58 しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ」。するとペテロは言った、「いや、それはちがう」。

22:59 約一時間たってから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒にだった。この人もガリラヤ人なのだから」。

22:60 ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。

22:61 主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏がなく前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。

22:62 そして外へ出て、激しく泣いた。

22:63 イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、

22:64 目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。

22:65 そのほか、いろいろな事を言って、イエスを愚弄した。

皆様おはようございます。

いよいよ今週の土曜日から4月に入ります。暖かい中にも朝晩は肌寒さを感じますが、皆様お元気にお過ごしでしょうか。

このところの寒暖の差の気候の中、冬の疲れも出てか、体調を崩したり、足腰の痛みを覚える方々のことを良くお聞きします。どうぞ皆様お気を付け頂きたく願います。

さて、いよいよ来週に受難週を控えております。

今日はイエス様が逮捕された後、ペテロが主を3度否む箇所です。

かつてイエス様はこのようにお語りになりました。

マタイ 10:32 だから人の前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受け入れるであろう。

10:33 しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう。

ルカ 12:6 五羽のすずめは二アサリオンで売られているのではないか。しかも、その一羽も神のみまえで忘れられてはいない。

12:7 その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。

12:8 そこで、あなたがたに言う。だれでも人の前でわたしを受けいれる者を、人の子も神の使たちの前で受けいれるであろう。

12:9 しかし、人の前でわたしを拒む者は、神の使たちの前で拒まれるであろう。

12:10 また、人の子に言い逆らう者はゆるされるであろうが、聖霊をけがす者は、ゆるされることはない。

12:11 あなたがたが会堂や役人や高官の前へひっぱられて行った場合には、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しないがよい。

12:12 言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださるからである」。

恐れるな、神様の助けがあるから、聖霊が共にあって弁明の言葉が用意されるから、信仰をもって、恐れずに進みなさい。だれでも人の前でわたしを受けいれる者を、人の子も神の使たちの前で受けいれるであろう。しかし、人の前でわたしを拒む者は、神の使たちの前で拒まれるであろうと語られたからこそ、ペテロは「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」と答えたのではないのでしょうか。

しかし、しかしその顛末は散々たるものでした。

53 毎日あなたがたと一緒に宮にいた時には、わたしに手をかけなかった。だが、今はあなたがたの時、また、やみの支配の時である」。

「今はあなたがたの時、また、やみの支配の時。」

時は夜。いよいよイエス様が捕らえられる時が来ました。

54 それから人々はイエスを捕え、ひっぱって大祭司の邸宅へつれて行った。ペテロは遠くからついて行った。

捕らえひっぱって。「強盗にむかうように剣や棒を持って出てきた」人たちによって、弟子たちの抵抗もむなしく(イエス様が「それだけでやめなさい」とおっしゃったので)捕らえられ、大祭司の邸宅へひっぱられていくイエス様のお姿が記されています。

55 人々は中庭のまん中に火をたいて、一緒にすわっていたので、ペテロもその中にすわっ

た。

56 すると、ある女中が、彼が火のそばにすわっているのを見、彼を見つめて、「この人もイエスと一緒にいました」と言った。

時は夜半。肌寒さを解消するためのたき火ですが、夜の闇に紛れて庭まで距離を置いてたどり着いたまでは良かったのですが、たき火の光に顔が照らされ、ある女中に気づかれることとなります。彼女はペテロの顔をじっと見るや、言いました。

「この人もイエスと一緒にいました」

「イエス様と一緒にいる」とは、今までは大変名誉なことでした。

イエス様に知られ、イエス様を知り、起居を共にし、力強い言葉と行いを見せていただきました。癒しや給食や、嵐が凧に変わる奇跡、亡くなった人が再び立ち上がる光景も見ました。魚の口から出てきたお金で税金を払ったこともありました。イエス様につく弟子たちは、イエス様のお力のゆえに、お優しさと力強さのゆえに、今まで持っていたものを、網でも徴税するための台であろうとかなぐり捨ててイエス様につき従いました。

「イエス様と一緒にいる」弟子であるということが彼の誇りであり、喜びでした。

その称賛の言葉が、晴れやかな言葉が、今は彼を苦しめる言葉となりました。

恐れることはない。…だれでも人の前でわたしを受け入れる者を、人の子も神の使たちの前で受け入れるであろう。

あなたがたが会堂や役人や高官の前へひっぱられて行った場合には、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださるから

このイエス様のお言葉もむなしく、彼は咄嗟にこう言ってしまいました。

57 ペテロはそれを打ち消して、「わたしはその人を知らない」と言った。

イエス様はいわゆる最後の晩餐の折、ペテロにこう言われました。

シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

サタンがふるいにかける。合格品と不合格品を分けるように、価値あるものと価値無きもの

を選別するように、そういう熾烈な業がなされる時にどうなってしまうのか。イエス様はすでに弟子たちの慌てふためき散り散りになる姿を知っておられました。知っておられた上で、イエス様は信仰がなくならず、互いに助け合って乗り越えることが出来るように祈っておられました。しかしペテロはそんな自分の弱さには気付いてはいませんでした。

「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

そんなイエス様のお声はどこ吹く風で、ペテロは自分が主を否むことなど全く信じてはいませんでした。果たしてその通りになってしまいました。

聖霊の助けがあり、主の祈りがあり(もっともその祈りは彼の挫折からの立ち直りのための祈りでしたが)、それでも易々と主の弟子が恐れに駆られて信仰の無い行いをしてしまう。サタンの思うつぼになってしまう。主の弟子らしいことが出来ない。こういう弱さと挫折の中に私たちもいるのではないのでしょうか。

主のお守りがあり、恐れずに、屈することなく進める。こういう信仰が確かにありながらも、「人の前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受け入れるであろう」との言葉に答えようとの、並々たる思いがあろうとも、私たちにはその決意もむなしく、信仰の心もむなしく、もみ殻のように価値無きもののような行動しかできない。肝心な時に信仰をもって行うことが出来ない、そういう弱さを持っていることがこの聖書の個所にありありと示されているのではないのでしょうか。

58 しばらくして、ほかの人がペテロを見て言った、「あなたもあの仲間のひとりだ」。するとペテロは言った、「いや、それはちがう」。

59 約一時間たってから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒にだった。この人もガリラヤ人なのだから」。

一度否定してしまえば、あとは崖を転がり落ちるようなものです。

「イエス様と共にいた」光栄な出来事も、「仲間の一人だ」との良き出来事も、片田舎のガリラヤを愛して下さり、共にガリラヤを歩いたことも、すべてをかなぐり捨てて無にってしまった彼の心の中はどのようなものだったのでしょうか。

60 ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。

61 主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏がなく前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。

62 そして外へ出て、激しく泣いた。

3度否み終わる前に、夜明けが来る前に、彼は堅く誓ったその夜のうちに頹れてしまいました。

主は振り向いてペテロをご覧になりました。

主のまなざしはどのようなものだったのでしょうか。

裏切者への冷たい視線だったのでしょうか。それとも、私が言ったとおりだ。その先に私が何と行ったか思い出さない。

「しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」

しかし、しかしです。そうしてしまってもしかし、それでもなおしかし、です。

「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」

あなたは信仰を取り戻す。そして兄弟たちを力づけるのだとイエス様は目で語られたのではないのでしょうか。

失敗して、恥をかかせ、恩を仇で返す、このペテロに対してイエス様はどこまでも彼を赦し、その罪を贖い、彼を立たせ、お用いになられるのです。

私たちは私たちががっかりさせたり、起こらせたり、がっかりさせる存在に対して、どのようにふるまうのでしょうか。あくまで受け入れ、赦し、立ち上がらせ、お用いになられようとしておられる主のお姿が私たちの心に刺さります。

そのイエス様のお姿と愛が分かったからこそ、ペテロは激しく後悔し、激しく泣くのでした。

63 イエスを監視していた人たちは、イエスを嘲弄し、打ちたたき、

64 目かくしをして、「言いあててみよ。打ったのは、だれか」ときいたりした。

65 そのほか、いろいろな事を言って、イエスを愚弄した。

馬鹿にして、打ちたたき、「言い当ててみよ」これは予言してみよ、今まで力強く語ってきたように語ってみよとのばかにした言葉です。おい先生様、立派に話しておられた時のように当ててみたらどうかとのばかにした物言いです。色々な事を言って愚弄した。これは神を冒瀆したとの意味です。

神を信じもしない、恐れもせずに、神様を弄び愚弄し冒瀆する。このイエスは神の力など持っていない、このイエスによってなされたことも皆ペテンだと、イエス様の内に働かれた聖霊の力を信じない者は、自分の救いを閉ざしてしまうのも同然です。

開き直って傲慢にふるまうものと、自分自身の弱さと不甲斐なさに徹底的に打ちのめされている人。恰好は悪いですが、打ちのめされている人の方が、神様の前には義とされている人なのです。

私たちは日常生活の中で、ついで「私はこの人を知らない」というようなお師匠様不孝を働くのですが、そんな時にもイエス様の祈りを思い起こしたいのです。そして、聖霊の助けの中で、自らの力ではなくて、聖霊様は、熾烈な状況下でも私たちを助け出してくださる道を開いて下さることをいつも信じていきたいのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。人の思いや決意や熱心さにもかかわらず、恐れに取り囲まれ、信仰も働かず、主の弟子であるという喜びも消え去り、「わたしはあの人を知らない」と言ってしまう薄情な者のため、「人の前でわたしを拒む者は、神の使たちの前で拒まれる」とされても仕方のない者のため、主は「あなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」とお語り下さいますから、その恵みに感謝を申し上げます。あなたの祈りを受け、弱き者ですが、赦しと恵みを信じる信仰をもって進む私たちを強めて下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン